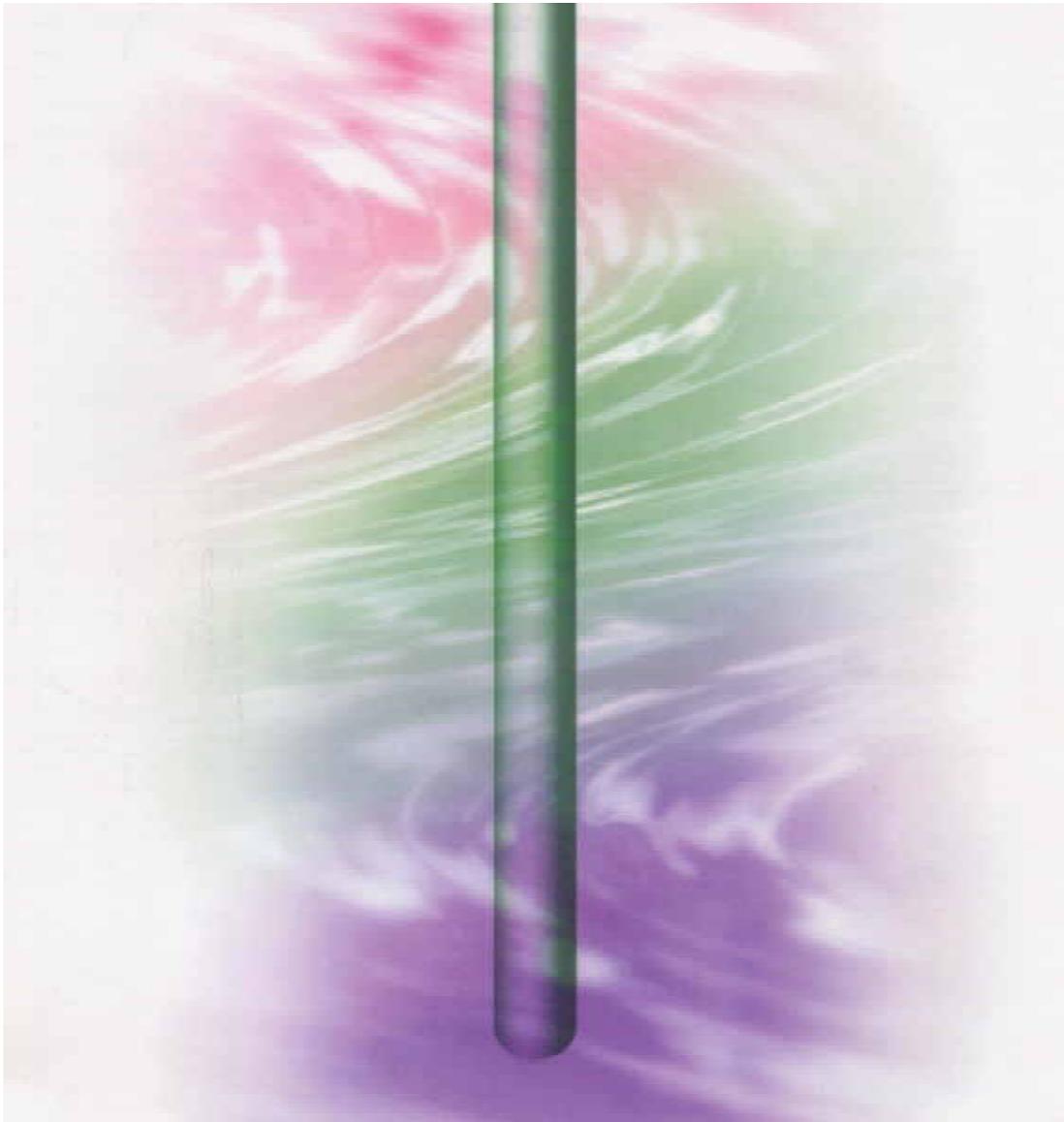


セ ン サ ー

2011年 1月号 第43号

東京温度検出端工業会 会報



はやぶさの冒険

2011年1月

会長 林 正 樹

新年明けましておめでとうございます。平素は会の活動にご理解・ご協力頂き、厚く御礼申し上げます。

2008年秋のリーマンショック以来大きな打撃を受けた日本経済でしたが、昨年はエコカー補助金や家電エコポイントの関係で一時的に需要が高まりました。また今年の7月にはテレビがデジタル放送に完全に移行しますので、その前にもう一度、薄型テレビの需要の大きな山が来ると思われます。その他には Apple 社の iPhone から始まった携帯電話のスマートフォンが NTT docomo や au から出揃って、今後大きな需要を創出しそうな勢いです。しかしながら一方で、今年3月卒業の大学生の就職状況が過去最悪との報道もなされており、この長い不況の出口はまだ見えて来ません。何が不況脱出の起爆剤になるのか分かりませんが、早くこの鬱陶しい状況から脱出したいものです。

そのような中で明るい話題といえば、7年余の宇宙旅行から昨年6月13日、地球に帰還した小惑星探査機「はやぶさ」のことを一番に挙げたいと思います。私の手許に宇宙航空研究開発機構（JAXA）が刊行した「宇宙をつかう 暮らしが変わる 宇宙利用ビジネス最前線 Vol.2」（日経BPマーケティングより発行、書店にて¥1,000で販売されていますので、興味のある方は是非、読んでみることをお勧めします）の中の特別付録「ドキュメントはやぶさ」という小冊子があり、これを読んでみますと、「はやぶさ」の7年余に及んだ宇宙旅行が如何に困難なものであったかが良くわかります。往路は2年4ヶ月、小惑星イトカワ周辺に滞在すること1年7ヶ月、復路は3年2ヶ月、総飛行距離約60億km！の飛行の末に地球に戻ってきました。その間、姿勢制御装置の故障から始まって、通信が途絶えて一時的に行方不明になったり、最後は4台あったエンジンが次々に駄目になって、最後の1台も不調になったときにはプロジェクトチームも万事休すかと覚悟したようです。この時には4台のエンジンシステムの中の使える部分を組み替えることで、窮地を脱したそうです。エンジンを担当した NEC の技術者が、開発の最後の最後に「ひょっとしたら役にたつことがあるかもしれない」と付け加えた1個の部品（ダイオード）で作られた回路により、組み換えが可能になったそうで、このことはプロジェクトマネージャーの川口教授にも報告せず、動作確認の地上試験も行っていなかったそうです。本来、そのようなことがあって良いものか分かりませんが、結果的にはそれがプロジェクト最大の危機を救った訳です。そういう危機を何度もくぐり抜けた末に、最後にカプセルを分離後、大気圏に突入して流星になって燃え尽きたはやぶさに対して、いとおしさを感じるのには私だけでしょうか。

障害が発生する度に秘策・裏技を発揮して障害を克服した技術者の執念には本当に脱帽ですが、一方で「はやぶさ」のオペレーション室にご利益のありそうな神社のお札が飾ってあって（「宇宙」とか「飛行」の文字に関係のある神社を尋ねたと何か別の雑誌に紹介されていました）、本当

にやるべきことをやりつくした後は真摯に神頼みの気持ちになるそうです。日本の最先端技術によって造られ、宇宙の果てに飛んで行った探査機の無事な帰還を願う気持ちと、古来からの神社にお願いする気持ちは、どこかで相通じるものがあるのかもしれません。

そもそもイトカワのような小さな惑星から僅かばかりの砂を持って帰って、それが何になるのか、と思う方もいるかもしれませんが、太陽系誕生の解明の手がかりになる、という意味では、まさに世界初の快挙だったといえましょう。

暗い話題の多いこの頃ですが、日本にもまだ世界に誇れるものが沢山あります。大いに希望をもってこれからの1年を過ごしましょう。最後に今年1年が工業会会員のお会社にとりまして良い年でありますよう、お祈り申し上げます。

会の動き

- 平成 22 年 2 月 5 日 新春懇親会 ... 参加者 25 名 (20 社・団体)
会場：銀座「佐賀昇」
- 平成 22 年 6 月 11 日 第 36 回定時総会 ... 参加者 25 名 (17 社・団体)
会場：KTP 大手町カンファレンスセンター
議題 第 36 期事業報告及び収支決算報告
第 37 期事業計画案及び収支予算案審議
- 平成 22 年 6 月 11 日 懇親会 ... 参加者 31 名 (18 社・団体)
会場：KTP 大手町カンファレンスセンター
- 平成 22 年 7 月 8 日 第 37 期第 1 回理事会 ... 出席 6 社 8 名、欠席 2 社
議題 第 36 期定時総会結果報告
第 37 期年間行事について
賛助会員（仮称）について
理事数見直しについて
- 平成 22 年 10 月 8 日 第 56 回技術懇談会 ... 参加者 14 名 11 社
会場：地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター
多摩テクノプラザ
内容 多摩テクノプラザ 概要紹介
都産研 沼尻治彦氏
多摩テクノプラザ 見学
- 平成 22 年 12 月 8 日 半日工場見学 ... 参加者 15 名 9 社
見学先：山武・藤沢テクノセンター

一日工場見学会報告

林電工(株) 林 裕二

今回初めての東京温度検出端工業会の工場見学で、株式会社 山武様の藤沢テクノセンターへ伺わせて頂きました。

私は 2010 年 9 月に林電工に入社し、初めて温度センサーの業界に入りました。まだ半年程しか温度業界に関する経験がないので、今回の工場見学では色々と勉強をさせて頂こうと思い参加致しました。

藤沢テクノセンターの工場見学では、工場での省エネ活動に関して説明をして頂き、実際に工場内の見学をさせて頂きました。こちらでは照明に高効率反射板の使用や紐による管理をしたり、空調室外機によしずを設置したりするなどして電力削減を行っておりました。

蛍光灯から紐を垂らし使用をしていないエリアは個々で消灯したり、よしずを使用して室外機の空調効率を向上させたりしているところは、多額の資金を必要とすることなく省エネ活動を行うことができると思うので参考になりました。

また第 100 建物と呼ばれる新技術棟での空調管理では、ただ省エネを行うのではなく快適性を損なうことなく省エネを実現しておりました。

このほかにも工場内の空気の管理を行い、空気の無駄や漏れも制御をしておりました。空気もタダでは無くコストがかかっているという考えは、今まで思ったことがなく非常に勉強になりました。

今回藤沢テクノセンターの省エネ活動を見学させて頂き、省エネ活動は決して多くの資金がなくとも、省エネに対する意識や小さな事の積み重ねでコストの削減や効率化が出来ると思うので勉強をさせて頂きました。また私自身今後参考にして参りたいと思います。

今回このような見学をさせて頂いた株式会社山武 藤沢テクノセンター様や、関係者の方々へ心よりお礼申し上げます。

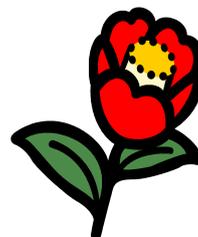
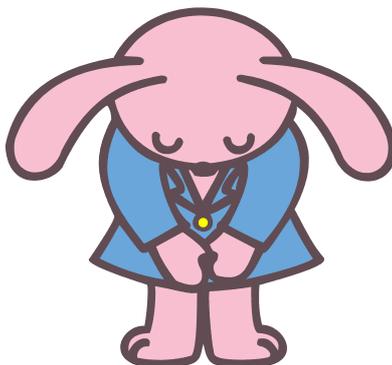
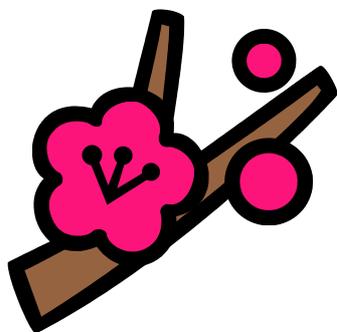


編集後記

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いたします。

昨年は尖閣諸島の漁船問題、ロシア首相の北方領土訪問、北朝鮮による韓国砲撃等きな臭い話題も多かったのですが、後半になってノーベル化学賞を日本人二名が受賞というグッドニュースがあり溜飲を下げた方も多いのではないのでしょうか？

お二人にあやかるわけではないのですが、ぜひ価格競争に巻き込まれないような技術力・製品力をつけて進化したいものです。今年うさぎ年。相場の世界で言われているように、会員様の業績が跳ね上るようお祈りしております。



平成 23 年 1 月 発行 43

発行所 **東京温度検出端工業会**

事務局

〒 113-0021 東京都文京区本駒込 6 - 5 - 5

林電工 株式会社 内

電話 03 - 3945 - 3151

F A X 03 - 3945 - 3130